

公益社団法人 地盤工学会関東支部



JGS Kanto

Newsletter

Kanto Branch of Japanese Geotechnical Society

支部幹事長就任のご挨拶

関東支部幹事長 峯 岸 邦 夫
日本大学理工学部交通システム工学科

前幹事長小峯秀雄先生の後任として2016年4月の支部通常総会において支部幹事長に選出されました峯岸邦夫（日本大学理工学部交通システム工学科）と申します。任期は、2019年4月までの3年間です。まだ、支部幹事長としての職責を十分把握しきれておりませんが、精一杯、支部発展のため頑張りますので、ご指導、ご支援のほど、よろしくお願いいたします。

支部幹事長のお話があったのは、昨年7月の北海道科学大学で開催された地盤工学研究発表会の会場だったと記憶しています。前幹事長の小峯先生から打診がありました。その時にすでに何人かの候補がおられたようですが、まさか私にまわってくるとは思っていませんでした。その後、ちょうど1年前のGeo-Kanto2015の意見交換会会場で龍岡文夫支部長と小峯前幹事長から改めてお話を頂き、お引き受けすることになりました。

その時には、任期が3年であること、支部の財政が逼迫していること、3年後に行われる地盤工学研究発表会（学会創立70周年記念）の担当が関東支部であることなどは、ほとんどお話がありませんでした（あったのかもしれませんが、覚えていません）。まだ、就任前でありましたが引継ぎを兼ねて、2015年度第2回運営委員会にオブザーバーとして参加させていただいたときに、会計報告で支部財政が逼迫していることを知りました。支部の財政が厳しいとは聞いていましたが、ここまで深刻な状態であるとは思っていませんでした。

一部の学会を除き、地盤工学をはじめ多くの学会で会員数は減少する傾向にあります。これは、地盤や他の工学分野の牽引役となり日本の技術向上に寄与された我々の先輩達、いわゆる団塊の世代の方々が大量に退職され現場を離れ、学会を退会されていくからです。

逼迫している財政を立て直すには、収入を増やし、支出を減らすことが一番の特効薬です。



しかし、このような状況下で、会費収入（支部には、所属会員数に応じて本部からの割戻金があります）増は見込めません。支出を抑えるには、何も行事を行わないのが一番ですが、そのようなことをすれば学会の存在価値がなくなります。学会とは、会員相互の技術に関する情報交換や情報発信、交流の場であり、互助会的な場でもあります。

私の在任中に、できるだけ財政を健全化させたいと思っています。限られた予算の中で、支部会員の皆様に積極的に参画して頂けるような質の良い行事を企画いたしますので、ご協力をお願いいたします。また、支部活動への寄附制度につきましても検討（2016年度第1回評議員会で審議予定）しておりますので、資金面でもご支援をいただければと思っております。

さて、話は変わりますが、私が地盤工学と関わり始めたのは大学3年生の時です。ゼミナールという必修科目で土質工学研究室（巻内勝彦教授）を選択したことに始まります。学会との関わりは、修士1年の時に卒業研究の内容をとりまとめて発表したのが初めてです。日大大学院で非常勤講師をされていた久野悟郎中央大学教授が学会長で新潟市内の会場で行ったと思います。私は、急速圧密試験に関連するテーマで発表しましたが、当時、圧密とせん断は花形セッションで比較的大きな会場で、膝をガクガクさせながら発表をしたのを覚えています。質問も強烈でした。三笠正人先生と今井五郎先生からで、当然、学部出立ての私なんかには答えられるわけもなく、冷や汗をかいた思い出があります。それから約30年後、本学の非常勤講師をされていた某高速道路株式会社のY先生と講義前の雑談で、Y先生が私の一つ年上であること、修士時代は圧密を研究されていたことなどを話しているうちに30年前に同じ空間で研究発表を行っていたことがわかり、お話が盛り上がった記憶があります。世間（いや業界）は狭いとよく言われますが、それを実感した時でした。

このような私ですが、3年間（正確には、後2年半ですが）、支部幹事長を務めさせていただきますので、改めて、よろしく願いいたします。

若手技術者交流会「地盤改良に関する調査・施工・開発・研究」 開催報告

関東支部 会員サービスグループ
幹事・槌谷 勝之

平成 28 年 6 月 30 日（木）17:00～19:00 に地盤工学会地下大会議室にて若手技術者交流会「地盤改良に関する調査・施工・開発・研究」を開催致しました。

若手技術者交流会は、支部創立 10 周年事業の一環として企画され、若手技術者同士の交流を通じて、普段の業務とは異なる立場の方々の視点を知ることにより視野を広げ、今後の本務に生かしていただくことを目的としております。平成 26 年度に第 1 回目が開催され、今回で 2 回目の開催となりました。

本年度は、「地盤改良に関する調査・施工・開発・研究」をテーマに立場の異なる技術者および研究者 4 名の方をパネリストにお招きし、ご自身の経歴や業務内容と併せて、経験の中で得た知識や現在感じている問題点、過去に苦労したことなどについてご講演いただきました。

地盤改良に関する「調査」として、川崎地質株式会社の宇多川和浩氏、「施工」として三信建設工業株式会社の本谷洋二氏、「開発」として株式会社不動テトラの鈴木亮彦氏、「研究」として独立行政法人労働安全衛生総合研究所の堀智仁氏にそれぞれご講演いただき、その後に会場のレイアウトを変更して、自由な雰囲気の中で全体ディスカッションを行いました。このセッションでは、地盤改良に興味を持った動機や日々の業務を遂行する上での疑問点、職場内でのコミュニケーション等、様々な視点から活発な意見交換が行われました。

本交流会には総勢 47 名の方が参加し、参加者は学生から社会人、所属も多岐にわたり、今回の若手技術者交流会も盛況のうちに無事終わることが出来ました。

今後も地盤に関する様々なテーマを取り上げ、継続的な交流会の開催を計画しております。次回の交流会では、さらに多くの参加者を目指すとともに、若手技術者の方々には情報交換の場として、交流会を積極的に活用していただけるように努力して参ります。

最後に貴重なご講演をしていただきましたパネリストの皆様に対し、深く御礼申し上げます。



写真-1 パネリストによる話題提供の様子



写真-2 全体ディスカッションの様子

「ハッ場ダム現場見学会」の開催報告

関東支部 群馬県グループ
幹事・久保田 佳幸

本現場見学会は、土木学会関東支部群馬会と群馬大学地盤工学研究室の共催、群馬県建設技術センターの後援により、平成28年7月4日（月）に開催されました。この見学会には、県内だけでなく東京方面からも応募があり、定員40名が案内を出してから4日間で一杯になりました。

群馬県の吾妻川中流に建設されるハッ場ダムは、利根川水系の上流ダム群とともに下流部洪水被害を軽減し、水資源の有効利用、首都圏都市用水の開発を行うものであり、治水および利水上きわめて重要な多目的ダムです。現在、ハッ場ダム建設現場は、本体掘削、打設用仮設備、原石山・骨材製造設備等の各種の工事が行われ、本体コンクリート打設の準備が着々と進められています。

今回見ることができるダム基礎岩盤は、その上にダムという巨大な構造物を乗せ、貯水池からの荷重やダム自重を伝え、大きな外力に耐える大変重要なものです。



現場見学会では、最初にハッ場ダム建設事務所の由井副所長と高橋専門官より、ハッ場ダムの事業説明を受け、ハッ場ダムの概要・役割・重要性等が理解できました。

ダム本体の掘削現場では、多くの掘削重機が稼働している状況を見ながら、基礎岩盤を構成する岩種や地質構造の説明を受け、ダムの基礎岩盤を間近に見ることができました。また、なかなか見ることのできない調査横坑まで見学させていただき、基礎岩盤の内部まで見ることもできました。

ダム建設に重要な役割を果たす基礎岩盤は、ダムが完成すると二度と見ることはできません。これを見学できただけでも、大変貴重な経験をさせていただきました。

原石山・骨材製造設備では、原石山で稼働する大型重機、原石から骨材を製造する大規模なプラント設備、プラントからダムコンクリート用の骨材を約10km運搬するベルトコンベア設備を見学させていただき、そのスケールの大きさに驚かされました。

今回の現場見学会は、国土交通省関東地方整備局ハッ場ダム建設事務所、ハッ場ダム本体建設工事清水・鉄建・IHI 共同企業体の皆様よりご協力をいただき、無事に終了することができました。

地盤工学会関東支部群馬県グループは、技術向上と地域貢献ができる講習会や現場見学会を、積極的に開催したいと思います。今後も多くの方々のご支援とご協力を、よろしくお願い致します。



写真-1 堤体左岸掘削状況



写真-2 堤体河床部掘削状況

関東・東北地方豪雨に伴う被災地の復旧工事現場の見学会 開催報告

関東支部 栃木県グループ
オブザーバー・宮崎 基浩

栃木県グループでは、国土交通省関東地方整備局日光砂防事務所、栃木県大田原土木事務所のご協力のもと、平成 28 年 7 月 21 日（火）に 20 名の参加を頂き関東・東北地方豪雨に伴う被災地の復旧工事現場の見学会を開催しました。

2015 年 9 月の関東・東北豪雨では、各所に観測史上最大の降雨をもたらし、栃木県内にも多くの土砂災害を引き起こしました。この度の甚大な災害を忘れず、つぎの災害に備えるため、日光市芹沢地区、那須塩原市上塩原地区の災害復旧現場を見学しました。

当日は道の駅「湯の香しおばら」に集合し、車 4 台に分乗して見学に向かいました。芹沢地区では日光砂防事務所 秋元様より、地区内 8 溪流 9 箇所において同時多発的に土石流が発生した被災状況、既整備済みであった砂防堰堤の土砂捕捉状況、被災後の迅速な応急復旧作業状況、警戒監視体制、砂防堰堤工事状況などをご説明頂き、実際の堰堤工事現場を見学しました（写真-1、写真-2 参照）。

続いて那須塩原市上塩原地区の地すべり現場を見学しました。栃木県大田原土木事務所整備部奈良場様より被災状況、調査状況、復旧対策計画などをご説明頂き、地質調査において採取されたボーリングコアを観察させて頂きました（写真-3、写真-4 参照）。

各所において活発な質疑に対し丁寧かつ詳細な回答を頂き有意義な時間となりました。

最後になりましたが、今回の見学会の開催にご協力いただいた日光砂防事務所、栃木県大田原土木事務所をはじめ関係者の方々には、深く御礼申し上げます。



写真-1 芹沢地区見学状況



写真-2 芹沢地区見学状況



写真-3 上塩原地区見学状況



写真-4 上塩原地区見学状況

千葉県富津市の地すべり防止区域及び天羽トンネル施工現場の見学会 開催報告

関東支部 千葉県グループ
リーダー幹事・若月 洋朗

千葉県グループでは、平成 28 年度の現場見学会を千葉県君津土木事務所と東日本高速道路株式会社 関東支社木更津工事事務所の協力を得て、千葉県富津市内に所在する 2 つの工事現場（「1. 上畑地すべり防止区域の地下水排除工」、「2. 天羽トンネル工事（Ⅱ期線）のトンネル掘削施工」）を見学させて頂きました。当日は、16 名のご参加を頂き、無事終了しました。

1. 上畑地すべり防止区域の地下水排除工の現場見学

見学者は、JR 蘇我駅に集合後、バスにて千葉県富津市の地すべり区域の現場に向かいました。現場では、千葉県君津土木事務所天羽出張所の徳留出張所長・綾部技師から、当該地域の地すべり対策事業への取組みの内容について説明を受けました。今回見学させて頂いた上畑地すべり防止区域は、保全対象として人家 11 戸、国道 127 号通行止時の迂回路となる二次緊急輸送路を含む地すべり防止区域とのことで、梅雨・台風・近年の異常豪雨によって地すべり活動が活発化し、道路擁壁の亀裂、道路の沈下などが発生し、早急な対策が必要になったとのことでした。対策としては、地盤の変動を抑制するために横ボーリングにより地下水排除工を設置しており、対策後の現地状況を視察させて頂きました。また、対策後の動態観測による確認で、道路表面に発生していた亀裂や沈下が治まってきたとのことですが、地盤の安定度を示すすべり安全率の数値を更に下げるために、アンカー工などの抑止工による対処も視野に入れて、今後も経過観察を続けていくとのことでした。



写真-1 地すべり対策工の現地視察状況



写真-2 天羽トンネル施工現場での集合写真

2. 天羽トンネル工事（Ⅱ期線）のトンネル掘削施工の現場見学

地すべり防止区域の現場見学後、バスにて天羽トンネル施工現場に向かいました。はじめに東日本高速道路木更津工事事務所の牛田工務課長より、当該工事の概要と技術的特徴等について説明を受けました。当該トンネルは全長 1271m で NATM 工法が採用され、現時点ではほぼ 50% の掘削が進んでおり、平成 30 年の開通を目標に施工を進めているとのことでした。また、工事の特徴としては、地山の状態に応じたロックボルト・H 鋼・覆工コンクリートの断面の設定方法や、環境対策の一貫として掘削土砂

の搬出にベルトコンベアを用いたこと、坑口付近の防音等の対策施設の設置など、今まで培われたトンネル施工の知識・知見を踏まえた、安全性・施工性を向上させる様々な工夫を知ることが出来ました。その後、施工現場の見学となり、施工中のトンネル内に立入らせて頂きました。当日のトンネル内の施工状況は、切羽の掘削・覆工施工・トンネルインバート施工等、ほぼすべての工種が実施されていたと、安全上差支えない範囲で、多くの施工状況を見させて頂くことができました。施工重機やダンプトラックが行き交う中でしたが、安全に配慮した引率により、施工現場の直近で生の施工状況を見させて頂くことができ、大変貴重な体験になったと思われます。

以上、2箇所の現場見学を終え、JR 蘇我駅に移動後、今回の現場見学会を終了し、解散しました。

平成 28 年度地盤工学会関東支部賞候補募集

公益社団法人 地盤工学会関東支部

地盤工学会関東支部では、「地盤工学会関東支部技術賞」、「地盤工学会関東支部功績賞」および「関東支部発表会優秀発表賞」の3つの賞を設け表彰する事により、その業績を讃え、合わせて関東支部活動の活性化を目指しております。このうち、「地盤工学会関東支部技術賞」と「地盤工学会関東支部功績賞」の候補者の募集を行います。これらの賞は、支部会員の地盤工学的観点から優れた工事の業績、技術の開発と実用化、創造性等に優れた学術成果、地盤工学関係技術者の育成や技術力向上、学会のPRなどへの業績や社会的地位向上に貢献を行った活動に対し表彰し、その成果を讃えるものです。以下の募集要項に基づき、奮ってご応募頂きますようお願い申し上げます。なお、「関東支部発表会優秀発表賞」については、関東支部発表会実行委員会の規程に基づき、別途表彰を行います。

受賞対象：関東地域に関係する次のいずれかに該当する業績を対象として、個人（複数可）または団体に授与する。

地盤工学会関東支部技術賞：

- ①地盤工学的観点から優れた工事の計画、調査、設計、施工、計測および維持管理等に関する業績等
- ②活用性、汎用性に優れた技術の開発および実用化等
- ③創造性、特殊性を有する学術的に優れた研究論文および研究報告等

地盤工学会関東支部功績賞：

- ①地盤工学関係技術者の育成および技術力向上に顕著な貢献をしたと認められる業績等
- ②地盤工学のPRおよび社会的地位向上に貢献をしたと認められる業績等
- ③地盤工学会会員として関東支部の活動に永年従事し、顕著な貢献をしたと認められる業績等

対象者資格：受賞対象者の資格は、特に設けない。ただし、地盤工学会関東支部功績賞の③については、支部会員（正会員、学生会員、特別会員）、および支部会員を代表とする機関あるいはグループとする。ここで、支部会員を代表とする機関とは支部会員が代表を務める機関とする。また、特別会員は特別会員である機関の下部機関についても応募対象者とする。なお、特別会員に属する非会員の個人を代表とするグループについては応募対象者とししない。さらに、ここでの会員とは応募時点において会員であり、かつ推薦締切日において引き続き会員であるものとする。

応募の形式：推薦とします。自薦・他薦を問いませんが、推薦者は関東支部の正会員（関東支部表彰委員を除く）、または特別会員であること。ただし、関東支部が主催する委員会活動および行事などは応募の対象外です。

審査：地盤工学会関東支部の表彰委員会により審査を実施し、受賞者を決定します。必要に応じてヒアリングを実施いたします。

発表：受賞決定の場合には、直接該当者に通知します。

表彰：平成29年（2017年）4月の関東支部通常総会において行い、受賞者には賞状・副賞を贈ります。

推薦受付：平成28年9月16日（金）より平成28年11月25日（金）まで。郵送の場合、当日消印のあるものを有効とします。

提出先：封筒の表に、「地盤工学会関東支部賞〇〇〇〇〇賞候補推薦」と記入のうえ、下記へ直接持参するか、あるいは書留で郵送してください。

〒112-0011 東京都文京区千石 4-38-2JGS 会館内

公益社団法人 地盤工学会関東支部

電話 03-3946-8670 FAX 03-3946-8699

※ 推薦書は地盤工学会関東支部の website よりダウンロードください。
<http://www.jgskantou.sakura.ne.jp/event/2016kantouaward.html>

(提出資料)

1.推薦書 1部

2.業績を示す資料（該当する業績ごとに以下に示す資料）10部

地盤工学会関東支部技術賞①、②：該当業績を記した論文または業績の内容が分かる説明資料やパンフレット

地盤工学会関東支部技術賞③：当該研究論文もしくは研究報告、1編

地盤工学会関東支部功績賞①、②：業績リスト（出典明示）と代表的資料のコピー3編

地盤工学会関東支部功績賞③：地盤工学会における活動履歴と業績リスト（出典明示）

【行事報告】

日 程	行事名称	場 所
H28.04.19	支部総会・特別講演会「選手村等施設整備を中心とした東京 2020 大会の準備状況について」	JGS 会館
H28.06.30	「若手技術者交流会 地盤改良に関する調査・施工・開発・研究」	JGS 会館
H28.07.04	群馬県グループ「ハッ場ダム現場見学会」	群馬県ハッ場ダム
H28.07.21	栃木県グループ「関東・東北地方豪雨に伴う被災地の復旧工事現場の見学会」	栃木県日光市 那須塩原市
H28.08.03	共催：土木学会関東支部群馬会「地震災害講習会」	前橋工科大学
H28.09.28	千葉県グループ「上畑地すべり防止区域の地下水排除工・トンネル工事（Ⅱ期線）のトンネル掘削施工現場見学会」	千葉県富津市
H28.10.15	会員サービスグループ「ジオ散歩～江東デルタの水路と史跡～」	東京都江東区
H28.10.21	第 13 回地盤工学会関東支部発表会 GeoKanto2016	日本科学未来館

ゴシックの行事報告を本号でご紹介しています。また、これまでの行事報告については関東支部のホームページでご覧ください。

【行事予定】

日 時	行事名称	場 所
H28.11.01	平成 28 年度第 1 回評議員会・特別講演会「首都圏で展開する JR 東日本のプロジェクトとその地盤工学的課題」	JGS 会館
H28.11.09	共催：“彩の国”市民科学オープンフォーラム「埼玉県で直下地震が起こる前に・身を守るための知識と知恵」	大宮ソニックシティビル
H28.11.12	神奈川県グループ 大いなる神奈川の地盤 その生い立ちと街づくり 野外巡検「箱根火山起源の地質（テフラ）と神奈川県西部の地形」	神奈川県平塚市
H28.11.14	神奈川県グループ「平成 28 年度 神奈川県地盤工学セミナー」	関東学院大学関内メディアセンター
H28.11.22	群馬県グループ「学生向けのボーリングコア観察・勉強会」	群馬大学桐生キャンパス
H28.11.24	地盤を学ぶ「第 11 回 地盤工学会関東支部栃木県グループ講演会 栃木の地質と地震災害 震災を防ぐ取り組み」	足利市民プラザ
H28.11.26	会員サービスグループ「第 11 回ソイルストラクチャーコンテスト つくって、揺らそう 2！～液状化対策工～」	日本大学理工学部 船橋校舎

行事予定の最新情報については関東支部のホームページでご確認ください。

【今後の委員会予定】

日 時	委員会名称	場 所
H28.11.09 16:00～17:00	第 4 回 GeoKanto2016 実行委員会	JGS 会館
H28.12.05 14:00～17:00	運営委員会	JGS 会館
H29.03.06 16:00～17:00	平成 28 年度第 2 回評議員会	JGS 会館

関東支部では、メーリングリストにご登録頂いた会員の皆様に行事案内を随時お知らせしております。登録をご希望の方はお名前、会員番号、メールアドレスを明記の上、E-mail : kantouevent@jiban.or.jp または FAX : 03-3946-8699 までお申し込み下さい。

【ホームページリニューアルに伴う URL 変更のお知らせ】 ホームページをリニューアルしました。

旧 URL をブックマーク（お気に入り登録）されている方は新 URL にご変更ください

[旧 URL : <http://www.jiban.or.jp/kantou/index.html> ⇒ 新 URL : <http://jibankantou.jp/>]

今後とも当サイトを宜しく願います。

(真田 昌慶 : 企画総務グループ 幹事)

発行 公益社団法人 地盤工学会関東支部

〒112-0011 東京都文京区千石 4 丁目 38 番 2 号 JGS 会館内 TEL 03-3946-8670 FAX 03-3946-8699

<http://jibankantou.jp/>